

平成21年度全国学力・学習状況調査について

平成21年4月21日に全国学力・学習状況調査が実施されました。調査の概要と考察については下記の通りです。

1. 調査の概要について

(1) 調査実施日 平成21年4月21日(火)

(2) 調査の目的 (ア)全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各領域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施作の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(イ)各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげる。

(3) 調査の内容

教科に関する調査

〔主として「知識」〕…国語A, 算数・数学A	〔主として「活用」〕…国語B, 算数・数学B
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や, 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や, 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を中心とした出題

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童・生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4)対象児童数

国語 A	93名
算数 A	93名
国語 B	93名
算数 B	93名
生活習慣・学習環境に関する質問	93名

2. 臨海小学校6年生の児童の学力と課題について

国語

特出する結果(現状)

・漢字の書き取りなどの言語事項については全国平均を上回る結果が得られている。

・話すこと・聞くことに関しての落ち込みが見られる。中でも顕著なものは、「意図が伝わるように必要な情報を取り出す」項目と「意図が伝わるように話の組み立てを工夫しながら説明する」項目である。さらに、記述式の問題での無解答率も目立っている。

上記の現状に加え、授業中においても発言が少なかったり、発言内容がはっきりしなかったり、休憩時間においても、友達に自身の気持ちを伝えきれないことから、もめごととなる場面が見られたりするなど、自身の意図を的確に相手に伝える能力、自身の意図を的確に相手に伝えようとする姿勢に欠けることが裏付けられる。

以上の結果を踏まえ、以下の点を改善すべき課題と捉えた。

- ・言語事項の更なる定着。
- ・自身の考えを伝える場面の増設。
- ・自身の考えを視覚化し、改善点を見出させる取り組み。

これらの課題達成のため、以下の取り組みを実施していく。

- ・現在維持できている言語事項に関しては、習熟方法を継続し、更なる定着を図る。
- ・授業中に発言する場を増やし、自身の気持ちや考えを伝える場面を与える。
- ・全員が発言できない場合でも「自分ならどう説明するか」と全体へ問いかけ、一人ひとりが意図を的確に伝えるための話の組み立てを考え、ノートに記述するといった、機会を設ける。そのことによって、考えが視覚化され客観的な改善へと導くことへとつなげる。

算数

特出する結果(現状)

- ・基礎的な知識の調査に関してはほとんどの面で全国平均を下回っている。その中には「偶数を選ぶ」「四捨五入したものを選ぶ」など、整数の概念として当然理解していなければならない内容も含まれている。
- ・知識の活用の調査に関しては、ほとんどの面で全国平均を上回っている。特にグラフの読み取りや与えられた条件から筋道を立てて考える内容については大きく上回っていた。
- ・「正しい理由の記述を選ぶ」「判断するための考えを書く」「判断のわけを書く」という項目での落ち込みが目立つ。

上記の内容を4区分ごとに見た場合、「数と計算」「量と測定」「数量関係」に関しては基礎的な知識の習得が全国平均を下回り、知識の活用が全国平均を上回る結果であり、「図形」に関しては基礎的な知識の習得が全国平均を上回り、知識の活用が全国平均を下回るという結果であった。つまり、「数と計算」「量と測定」「数量関係」に関しては応用問題を得意とし、基本的な事柄が抜けているということである。大本の根本的な考え方を飛ばし、応用部分にだけ目が行ってしまった現状をどうとらえるべきかには、様々な考察が可能である。その中の一つとして受験勉強での成果がここに表れているということも、いえるのかもしれない。また「図形」に関しては、理解が基本的なことにとどまり、発展的内容まで及ばなかったということがいえる。

以上の結果を踏まえ、以下の点を改善すべき課題と捉えた。

- ・基礎的学力の定着。(基本的な内容をおろそかにしない姿勢)

・発展的問題の更なる定着。

・思考過程の明確化。

これらの課題達成のため、以下の取り組みを実施していく。

・基本的な事柄を定着させるため、計算ドリルを繰り返し行う。

・思考過程が分かるようにするため、また、基本的な事柄をおろそかにしないため、ノート指導の徹底。(途中式の過程を一段階ずつ書かせる)

・文章問題の読み込みを徹底させる。何を聞かれているのか、どういう単位でこたえるのか、にアンダーラインを引かせ、面倒がらずに手を動かす作業をさせる。

3. 基礎的・基本的なことをおろそかにしない姿勢

本校の現在行っている取り組みには、以下のような内容がある。

・授業時間の拡大の継続

・算数科における少人数および少人数習熟度別指導の実施(3～6年生)

・土曜スクールの実施(3～6年生・月1回)

・通知表および評価についての検討(評価の改善 授業の改善へ)

・問題解決型の授業展開の工夫(校内研究「筋道を立てて考える児童の育成」)

これらに加え、上記の取り組みを行い、よりいっそうの基礎的・基本的な学力の定着と魅力的な学習活動の展開を図りたい。

児童の学習に対する「関心・意欲・態度」を高めるためには、「わかる」喜びや「できた」充実感をもたせることが大切である。実際に「できる」と感じるまでには、視写や、計算ドリルの繰り返し、漢字の書き取り練習、など、単調な学習の繰り返しも当然あるだろう。また、ノートを採る、問題を声に出して読むなどの学習もおろそかにできない。目新しい機器を使用した授業にだけ取り組むのではなく、じっくりと自身の手や声を使って取り組むことや、コツコツと積み重ねることが、基礎的な学力の定着には欠かせない。加えてそれらは、「がまん」や「忍耐」といった現代の子ども達に欠けていることを育む大本の学習になるのではないだろうか。今回の調査結果は、見方によっては現代の子どもの実態をリアルに反映したものともとることができた。私たち教員自身が、この認識の元、子ども達にやりきらせる姿勢、やり続けさせる姿勢の必要性を感じ、今後の指導に反映させていくべきだと考える。